

# 歯科口腔外科学

## 1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	1 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
診療助教	1 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	6 人	
研修医	4 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	2 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	20 人	

## 2 教員の異動状況

加藤 文度（教授）（H23.12.1～現職）

長田 哲次（病院准教授）（H24.11.1～現職）

増本 一真（講師）（H22.8.1～現職）

渡邊 賀子（助教）（H22.8.1～現職）

加藤 雄大（診療助教）（H27.5.1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	6.45	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata T, Masumoto K, Hayashi Y, Watanabe Y, Kato Y, Katou F: Three-dimensional computed tomographic analysis of variations of the carotid artery. J Craniomaxillofac Surg, 2016. [2.93]
2. Masumoto K, Kitagawa M: E3 ubiquitin ligases as molecular targets in human oral cancers. Curr Cancer Drug Targets, 16, 130-135, 2016. [3.52]
3. Nakajima T, Kitagawa K, Ohhata T, Sakai S, Uchida C, Shibata K, Minegishi N, Yumimoto K, Nakayama KI, Masumoto K, Katou F, Niida H, Kitagawa M. Regulation of GATA binding protein 2 levels via ubiquitin-dependent degradation by Fbw7. J Biol Chem, 290, 10368-10381, 2015. [4.57]
4. Nakamura K, Yang JH, Sato E, Miura N, Wu YX. Effects of hydroxyl groups in the A-ring on the anti-proteasome activity of flavone. Biol Pharm Bull 38, 935-940, 2015. [1.78]

インパクトファクターの小計 [6.45]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 長田哲次: 【診療室・多職種協働の現場で生きる! 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック】知っておきたい! 全疾患の基礎知識と歯科診療における注意点 がん 頭頸部がん. デンタルハイジーン別冊診療室・多職種協働の現場で生きる! 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック, 135-137, 2015, 医歯薬出版, 東京.
2. 増本一真: 女性のがん. デンタルハイジーン別冊診療室・多職種協働の現場で生きる! 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック, 138, 2015, 医歯薬出版, 東京.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 渡邊賀子、加藤文度、林祐太郎、竹田敦、内山佳之、増本一真、長田哲次. 小児の下顎骨に生じたエナメル上皮腫の1例. 小児口腔外科、25 卷、14-18、2015.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 田中里枝、長田哲次、梅本紘子、平野智昭、渡邊賀子、内山佳之、増本一真、加藤文度. 口腔癌切除術後に特発性血小板減少性紫斑病を発症した1例. 有病者歯科医療、24巻、15-20、2015.

#### 4 特許等の出願状況

	平成27年度
特許取得数（出願中含む）	0件

#### 5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成27年度	
(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	3件	(230万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0件	(0万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0件	(0万円)
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0件	(0万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0件	(0万円)
(6) 財団助成金	0件	(0万円)
(7) 受託研究または共同研究	0件	(0万円)
(8) 奨学寄附金	0件	(0万円)

(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）

1. 長田哲次（代表者） 基盤研究（C） ポルフィリン生合成系タンパクをマーカーとした口腔がんパーソナライズド光線力学療法 100万円（継続）
2. 増本一真（代表者） 基盤研究（C） 口腔扁平苔癬に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法・診断 60万円（継続）
3. 渡邊賀子（代表者） 基盤研究（C） 口腔癌におけるCCR10陽性制御性T細胞誘導による腫瘍免疫回避機構の解明 70万円（継続）

#### 6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

#### 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

## 9 共同研究の実施状況

	平成27年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

## 10 産学共同研究

	平成27年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 口腔がん切除後の機能的再建

微小血管吻合術を用いた骨性再建・軟組織再建に加え、インプラント義歯、顎義歯を最終的に装着することを目的としたパーソナライズド治療の推進。

### 2. 口腔がん組織のプロトポルフィリンIX産生

赤色蛍光を発する癌細胞のプロトポルフィリン合成メカニズムの解明。

### 3. 口腔扁平苔癬に対する5-アミノレブリン酸を用いた光線力学療法・診断

口腔扁平苔癬患者にALA-PDT,CO2レーザーによる蒸散術を施行した。ALA-PDTでは局所麻酔が不要であり術後疼痛も軽度であったが約8割の症例で再発を認めた。CO2レーザーによる蒸散術（レーザー出力2W以上）では術後疼痛はやや強度であったがほぼ全例での完治を認めた。ALA-PDTの問題点を克服するためにはALA軟膏の改良、レーザーの深達性の向上が課題であると考えられる。

### 4. 口腔扁平上皮癌における免疫細胞の役割

口腔扁平上皮癌の癌巣と間質に着目し、それぞれに局在する免疫細胞に関する検討を行っている。

## 13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

## 14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

## 15 新聞、雑誌等による報道